

# A L T - 2 5 データ管理ソフト

V 3

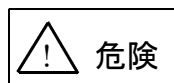
## 取扱説明書

高千穂産業株式会社

# 安全に関するご注意

---

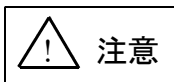
- ご使用の前に、この「安全に関するご注意」と取扱説明書をよくお読みの上、製品を安全に正しくお使い下さい。
- 安全上の注意事項を下記の様な表示で記載しております。表示の内容をよく理解してから本文をお読み下さい。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保管して下さい。



取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。



取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。  
軽傷または物的損害が発生する頻度が高い場合。



取扱いを誤った場合に、使用者が重傷を負う可能性は少ないが、傷害を負う危険が想定される場合、ならびに物的損害のみの発生が想定される場合。



してはならないことを示します。



しなければならないことを示します。

# 目次

1. はじめに	1
2. ソフトのインストール方法	1
3. ソフトの削除方法	2
4. ALT-25とのデータ転送	3
5. ソフトの起動方法	4
6. スポットデータ読み込み	6
6-1. USBメモリから読み込み	
6-2. 保存ファイル読み込み	
6-3. スポットデータの編集	
6-4. データ表示	
6-5. 印刷	
6-6. メニューに戻る	
6-7. 全データ消去	
6-8. ファイルに保存	
7. OPTOSデータ転送	16
7-1. OPTOSファイル読み込み	
7-2. 保存ファイル読み込み	
7-3. メニューに戻る	
7-4. 選択削除	
7-5. 転送データ全削除	
7-6. USBメモリに転送	
7-7. OPTOSデータ編集	
7-8. データ表示	
8. OPTOSデータ読み込み	25
8-1. USBメモリから読み込み	
8-2. 保存ファイル読み込み	
8-3. 読み込みデータの編集	
8-4. データ表示	
8-5. 印刷	
8-6. メニューに戻る	
8-7. 全データ消去	
8-8. すべてファイルに保存	

# 目 次

9.	ユーザー・ログ管理	33
9-1.	ユーザー・パスワードの設定	
9-2.	ログファイルの読み込み・保存	
9-3.	メニューに戻る	
10.	保存データ変換	37
10-1.	USBメモリに転送	
10-2.	選択削除	
10-3.	メニューに戻る	
10-4.	データの編集	
10-5.	データ表示	
11.	転送データ変換	40
11-1.	USBメモリから読み込み	
11-2.	データ選択	
11-3.	データ表示	
11-4.	データ変換	
11-5.	メニューに戻る	
11-6.	全データ消去	
12.	終 了	43

## 1. はじめに

本ソフトは、当社の自動メタル回線試験システム（AL T-25）のデータ管理機能として、線管データ（OPTOSデータ）の転送、回線の試験結果の読み込み、試験成績表の出力と保存が可能です。

また、セキュリティ管理機能としてAL T-25のユーザー・パスワードの作成や使用記録（ログデータ）の読み込み・保存が可能です。

### ◎特長・仕様


- ・線管データとしてOPTOSデータファイル（Excelファイル）を読みめる
- ・一度に100ユニット（10,000回線分）まで転送可能
- ・AL T-25とのデータ転送にはUSBメモリを使用する
- ・試験結果は、試験成績表としてExcelに出力し、印刷、保存可能
- ・スポット試験の結果は、1,000回線分のデータから抽出し試験成績表を作成可能
- ・ユーザー、パスワードは100件まで作成、転送可能
- ・AL T-25のログイン記録を読み込み、表示、保存可能
- ・AL T-23の保存データは変換し、AL T-25で使用可能
- ・AL T-24で保存したデータをAL T-25に転送できる形に変換可能
- ・AL T-25で保存したデータをAL T-24に転送できる形に変換可能
- ・試験回線の状態（不良の理由等）を示す**現地データ**の入力、保存、印刷が可能

### ◎動作環境

- ・対応OS : Windows 10 (32, 64bit) ※日本語版のみ対応
- ・必要ソフト : Microsoft Excel 2013以降
- ・外部記憶装置 : USBメモリ ※データ転送に使用
- ・ファイル形式 : Excel (.xls/.xlsx/.csv)、保存ファイル (.csxs/.csys)
- ・その他 : CD-ROMドライブ（インストール時）

## 2. ソフトのインストール方法

※本ソフトはAL T-25専用です。他の製品では使用できません。

 <b>注意</b>	旧バージョンのAL T-25データ管理ソフトがインストールしてある場合は、旧バージョンのソフトを削除してください。異なるバージョンのソフトを混在させた場合、正常に動作しない可能性があります。
---	---

- 1) パソコンを起動します。OSの管理者権限でのログオンが必要です。
- 2) 「AL T-25 データ管理ソフト システムディスク」をCDドライブに入れます。
- 3) パソコンを操作し、エクスプローラーでCDドライブを開いて内容を表示します。

○Windows10の場合のCDドライブの開き方

- ①デスクトップ画面より、エクスプローラーを開きます。
- ②「CDドライブ」または「DVD RWドライブ」をダブルクリックします。

- 4) フォルダ内の「SETUP.EXE」をダブルクリックします。
- 5) インストールソフトの起動後、必要に応じて入力または変更を行ってください。
  - ①ようこそ・・・ 内容を確認し「次へ」をクリックします。
  - ②インストール・・・ インストールの設定内容を確認し「インストール」をクリックします。
- 6) インストールの完了が表示されたら、「完了」をクリックしてください。  
以上でインストールは終了です。ディスクは、大切に保管しておいてください。

### 3. ソフトの削除方法

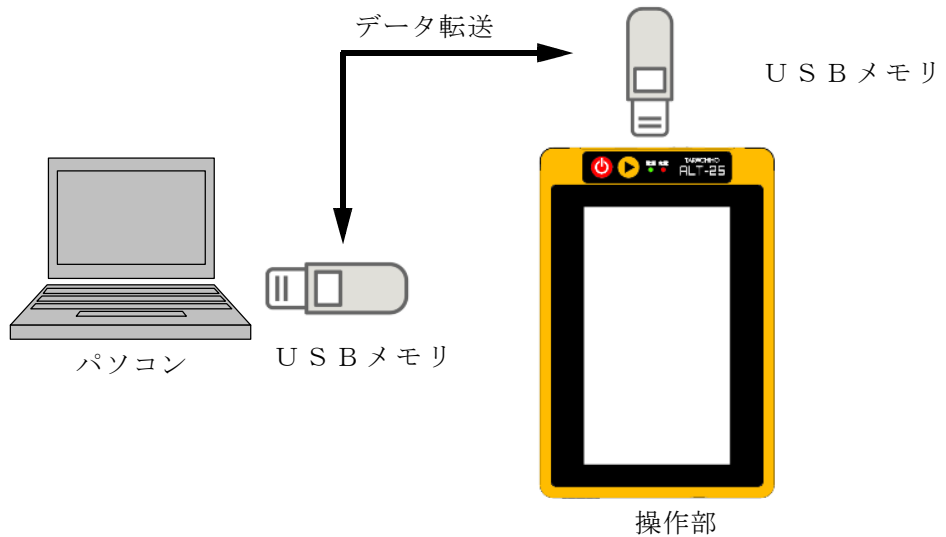
#### ○Windows10

- ①デスクトップ画面左下のスタートボタンにマウスカーソルを合わせ、マウスを右クリックして、一覧から「アプリと機能」をクリックします。
- ②表示されているソフトウェアの一覧から「ALT-25 データ管理ソフトVx.xx」を選択し、「アンインストール」をクリックします。  
(Vx.xxはインストールしたソフトのバージョンが表示されます)

以降は、画面に表示される内容に従って削除を進めてください。

## 4. ALT-25とのデータ転送

パソコンとALT-25間でのデータ転送は、USBメモリにデータを書込み、または読み込むことで行います。(USBメモリは付属しません)  
転送の際にデータが損失しないよう、USBメモリの取扱説明書に従って、よく注意して操作してください。  
USBメモリに書き込まれるデータは、秘密保護のため暗号化されています。



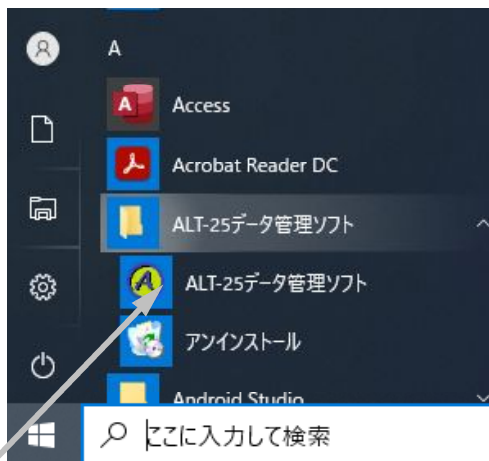
(図4-1)

## 5. ソフトの起動方法

インストールしたソフトを起動する方法について以下に説明します。  
※以降、説明はWindows10の操作手順の例、表示画面になります。

スタートメニューから、「ALT-25データ管理ソフト」をクリックしてください。

(図5-1)



(図5-1)

ALT-25データ管理ソフト

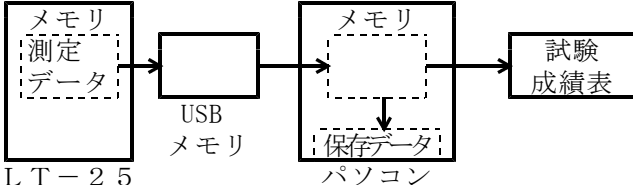
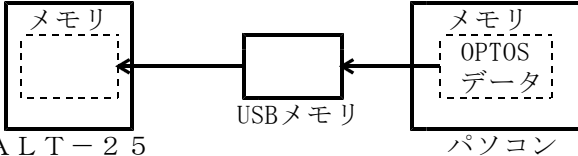
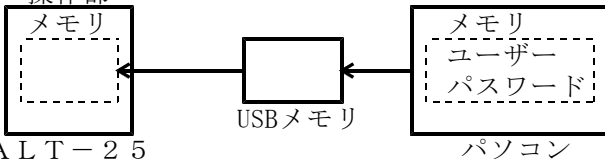
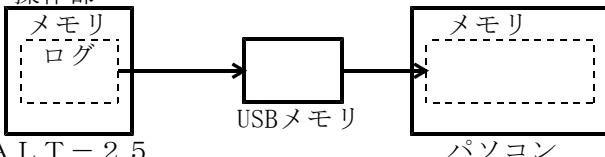
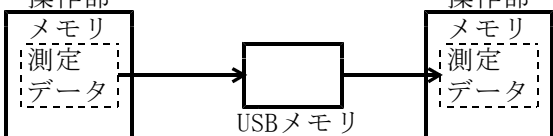
以上の操作により、メインメニューが表示されます。(図5-2)



(図5-2)



メインメニューの各ボタンの機能

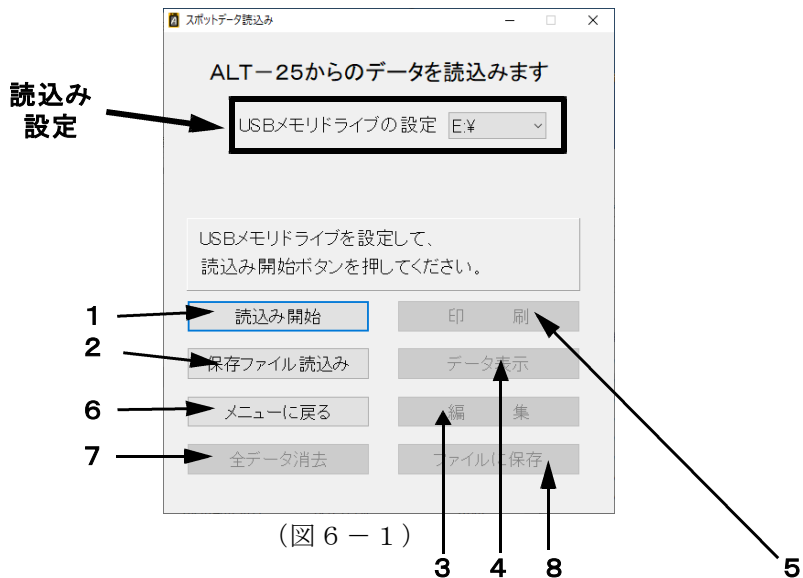
項目	機能の概要	掲載ページ
スポットデータ読み込み	<p>スポット試験の測定データをALT-25からパソコンに転送してファイルへ保存、試験成績表の印刷を行います。</p> <p>操作部</p>  <p>ALT-25</p> <p>パソコン</p>	6～15
OPTOSデータ転送	<p>OPTOSデータをパソコンからALT-25に転送します。</p> <p>操作部</p>  <p>ALT-25</p> <p>パソコン</p>	16～24
OPTOSデータ読み込み	<p>OPTOS試験の測定データをALT-25からパソコンに転送してファイルへ保存、試験成績表の印刷を行います。</p>	25～32
ユーザー・ログ管理	<p>ユーザー・パスワード設定のデータをパソコンからALT-25に転送します。</p> <p>操作部</p>  <p>ALT-25</p> <p>パソコン</p>	33～36
	<p>ALT-25のログファイルをパソコンに転送します。</p> <p>操作部</p>  <p>ALT-25</p> <p>パソコン</p>	
保存データ変換	<p>パソコン内にあるALT-23の保存データをALT-25のデータに変換します。</p>	37～39
転送データ変換	<p>ALT-24-ALT-25でデータを転送できるようにUSBメモリ内のデータを変換します。</p> <p>操作部</p>  <p>ALT-24</p> <p>ALT-25</p> <p>ALT-25</p> <p>ALT-24</p>	40～43

## 6. スポットデータ読み込み

メインメニューの「スポットデータ読み込み」を選択するとスポットデータ読み込みの画面が表示されます。(図6-1)

ALT-25のスポット試験の測定データをUSBメモリに転送しておき、この画面でパソコンに読み込みます。

読込んだデータはファイルに保存したり、試験成績表を作成してプリンタで印刷を行います。



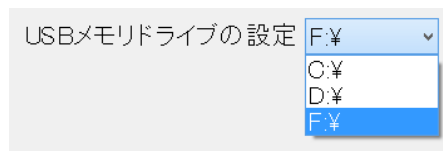
(図6-1)

### 6-1. USBメモリから読み込み

※スポット試験の測定データを転送したUSBメモリをパソコンに接続してから実施してください。

#### 1) 読み込み設定

「USBメモリドライブの設定」で、USBメモリの接続されているドライブを選択してください。(図6-2)



(図6-2)

## 2) 読み込み

「読み込み開始」をクリックすると、USBメモリにあるスポット試験の測定データの読み込みを行います。

### 6-2. 保存ファイル読み込み

ALT-25データ管理ソフトで保存したスポットデータを読み込みます。

「保存ファイルを読み込み」をクリックすると、ファイル選択画面になりますので、保存したファイル(\*.csys)を選択し「開く」をクリックしてください。

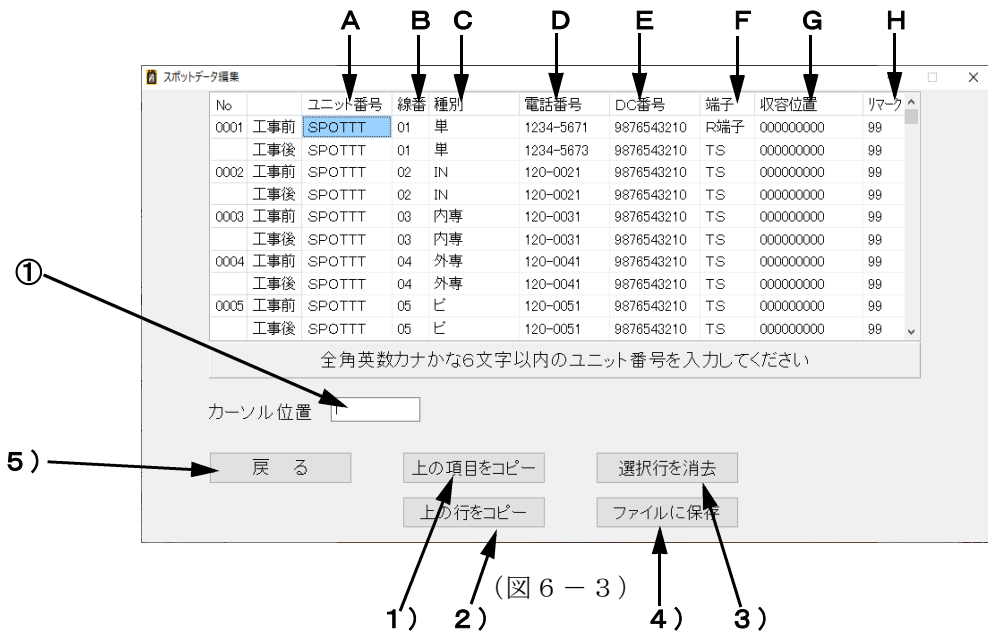
### 6-3. スポットデータの編集

「編集」をクリックすると、「スポットデータ編集」に移動します。

ここでは、読込んだスポットデータのユニット番号、線番等を編集することができます。

**※測定結果は、編集することができません。**

枠の右端のスクロールバー等で変更したい番号までカーソルを移動し、変更する項目をクリックして、入力してください。



#### 6-3-1. 項目の内容

- A. ユニット番号 (全角英数・カナ・かな 6文字以内)  
読込んだユニット番号を表示します。
- B. 線番 (2桁数字)  
読込んだ線番を表示します。

- C. 種 別 (6文字以内)  
回線の種別を表示します。
- D. 電話番号 (5桁～10桁数字)  
読込んだ電話番号が表示されます。
- E. DC番号 (5桁～10桁数字)  
読込んだDC番号が表示されます。
- F. 端 子  
端子の種類を設定します。スペースキーを押すと、「TS」と「R端子」が交互に切替ります。初期値は「TS」(試験弾器)です。  
※スペースは半角入力にしておく必要があります。
- G. 収容位置 (半角9桁数字)
- H. リマーク (半角2数字)  
収容位置とリマークの情報は、必要によりそれぞれ入力します。  
初期値は収容位置、リマークともにすべて「0」です。

#### 6-3-2. 表示

- ①カーソル位置  
編集している際のカーソル位置を表示します。

#### 6-3-3. 機能・動作

- 1) 上の項目をコピー  
カーソルの上にあるデータが、カーソル位置にコピーされます。
- 2) 上の行をコピー  
カーソルの上にある行のデータが、カーソル位置のある行にコピーされます。
- 3) 選択行を消去  
カーソルのある行のデータが全項目削除されます。  
削除後は初期値として、端子に「TS」、収容位置、リマークに「0」が内部で設定されます。
- 4) ファイルに保存  
編集したデータを保存ファイルとして保存することができます。  
「ファイルに保存」をクリックすると、「名前を付けて保存」のウィンドウが表示されますので、ファイルを保存する場所、ファイル名を設定して保存します。

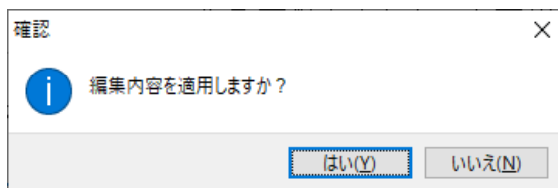
ファイル名は標準で、保存する時刻を元にして、

年2桁+月2桁+日2桁+時2桁+分2桁+「\_SPOT. csy」

と設定されます。

5) 戻る

「戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図6-4)



(図6-4)

「はい」をクリック : 編集したスポットデータの変更内容を適用して、「スポットデータ読み」に戻ります。

「いいえ」をクリック : 編集したスポットデータの変更内容を破棄して、「スポットデータ読み」に戻ります。  
(データは編集前のものに戻ります)

#### 6-4. データ表示

「データ表示」をクリックすると、読込んだスポット試験の測定データが表示されます。(図6-5)

No	前後	エント番号	線番	種別	電話番号 (ID)	LCN番号	端子	収容位置	リマク	測定日	ユーザー名	ジャンパ	トキキ結果	通信
0001	工事前	SPOTTT	01	単	1234-5671	9876543210	R端子	000000000	99	2015/01/01	12345678		○	
	工事後	SPOTTT	01	単	1234-5673	9876543210	TS	000000000	99	2015/01/01	12345678			
0002	工事前	SPOTTT	02	IN	120-0021	9876543210	TS	000000000	99	2015/01/01	12345678			
	工事後	SPOTTT	02	IN	120-0021	9876543210	TS	000000000	99	2015/01/01	12345678			
0003	工事前	SPOTTT	03	内導	120-0031	9876543210	TS	000000000	99	2016/01/01	12345678			
	工事後	SPOTTT	03	内導	120-0031	9876543210	TS	000000000	99	2015/01/01	12345678			
0004	工事前	SPOTTT	04	外導	120-0041	9876543210	TS	000000000	99	2015/01/01	12345678			
	工事後	SPOTTT	04	外導	120-0041	9876543210	TS	000000000	99	2015/01/01	12345678			
0005	工事前	SPOTTT	05	ド	120-0051	9876543210	TS	000000000	99	2015/01/01	12345678			×
	工事後	SPOTTT	05	ビ	120-0051	9876543210	TS	000000000	99	2015/01/01	12345678			○
0006	工事前	SPOTTT	06	公	120-0061	9876543210	TS	000000000	99	2015/01/01	12345678			
	工事後	SPOTTT	06	公	120-0061	9876543210	TS	000000000	99	2015/01/01	12345678			
0007	工事前	SPOTTT	07	特公	120-0071	9876543210	TS	000000000	99	2015/01/01	12345678			


(図6-5)

「戻る」 : 前の画面に戻ります。

「Excelに表示」 : Excelを起動して、画面に表示されたデータを自動的にExcelに表示します。(図6-6)  
データ量が多いため、表示されるまで時間がかかる場合があります。

No	前後	エントリ番号	種別	電話番号	DC番号	端子	取付位置	リーク	測定日	ユーザー名	ジョイントキー
1	工事前	TEST 01	単	1-1234		TS	00000000	00	2013/09/11	D	○
5	工事後	01	単	1-1234		TS	00000000	00			
2	工事前	TEST 02	単	1-1234		TS	00000000	00	2013/09/11	D	
7	工事後	02	単	1-1234		TS	00000000	00	2013/10/02	W	
3	工事前	TEST 03	単	11-2345		R端子	00000000	00	2013/09/11	D	○
9	工事後	03	単	11-2345		R端子	00000000	00	2013/09/11	D	○
4	工事前	TEST 04	単	2-2221		TS	00000000	00	2013/09/11	D	○
12	工事後	04	単	2-2221		TS	00000000	00			
5	工事前	TEST 05	IN	65-5355		TS	00000000	00	2013/09/11	D	○
13	工事後	05	IN	65-5355		TS	00000000	00	2013/09/11	D	○
6	工事前	TEST 06	単			TS	00000000	00	2013/10/07	W	
14	工事後	06	単			TS	00000000	00			
7	工事前	TEST 07	単	1-1111		TS	00000000	00	2013/10/08	W	
15	工事後	07	単	1-1111		TS	00000000	00			
8	工事前	TEST 08	単			TS	00000000	00			
16	工事後	08	単			TS	00000000	00			
9	工事前	TEST 09	単			TS	00000000	00			
17	工事後	09	単			TS	00000000	00			
10	工事前	TEST 10	単			TS	00000000	00	2013/10/02	W	
18	工事後	10	単			TS	00000000	00			
11	工事前	TEST 11	単			TS	00000000	00	2013/10/02	W	
19	工事後	11	単			TS	00000000	00			
12	工事前	TEST 12	単			TS	00000000	00			
20	工事後	12	単			TS	00000000	00			

(図 6 - 6)



**注意**

- 測定データを表示するには、Excelがインストールされている必要があります。
- 測定データを表示する際にExcelを自動的に起動しますので、あらかじめExcelを終了しておいてください。Excelが起動していると確認メッセージが表示されます。

### 6 - 5. 印刷

「印刷」をクリックすると、スポット試験の試験成績表を作成できます。(図 6 - 7)

**F**

**A** →

**B** →

**E** →

**H** →

**J** →

**L** →

**スポットデータ試験成績表設定**

**試験成績表タイトル編集**

工事名1  全角13字まで ビル名  全角/字まで

工事名2  全角13字まで 施工者名  全角10字まで

測定年月日  (入力例 2011/01/01) ユニット番号  印刷対象を選択  半角6文字まで

対照区間  全角15字まで 印刷開始番号  同名ユニットがあるとき変更 (1~1000)

絶縁抵抗判定値(現用回線)  MΩ(入力例 0.10~50.00) 容量判定方法 測定値 レ点 0.01 μF(入力例 0.01~9.99)

絶縁抵抗判定値(空回線)  MΩ(入力例 0.10~50.00)

← **C**

← **D**

← **G**

← **I**

← **K**

1) 2) (図 6 - 7) 3)

## 6-5-1. 設定の項目

- A. 工事名 1  
工事名を入力します。試験成績表の工事名欄の上段に記載されます。  
全角 15 文字まで入力できます。
- B. 工事名 2  
工事名を入力します。試験成績表の工事名欄の下段に記載されます。  
全角 15 文字まで入力できます。
- C. ビル名  
ビル名を入力します。全角 7 文字まで入力できます。
- D. 施工者名  
施工者名を入力します。全角 10 文字まで入力できます。
- E. 測定年月日  
測定年月日を入力します。半角の数字で年／月／日を入力します。
- F. ユニット番号  
読込んだデータにあるユニット番号を選択し、一致したユニットが抽出されます。  
入力欄の右端の▼を押すと読込んだデータにあるユニット番号のリストが表示  
されます。(最大 20)  
リストにない場合は、ユニット番号を入力します。全角 6 文字まで入力できます。  
空欄にすると、印刷開始番号から連続 100 データが抽出されます。
- G. 固配番号  
回線の固配番号を入力します。半角の数字で 6 桁まで入力できます。
- H. 対照区間  
対照区間を入力します。全角 15 文字まで入力できます。
- I. 印刷開始番号  
読込んだデータから抽出を開始する番号を、半角の数字で 1～1000 の範囲で  
入力します。  
「F. ユニット番号」でユニット番号を指定した場合は、同名のユニット番号が  
2カ所以上にあると先にあるデータが取込まれるため、開始番号を指定して  
抽出したいデータを選択することができます。
- J. 絶縁抵抗判定値(現用回線)  
現用回線(電話番号がある回線)の絶縁抵抗の良否を判定する値を入力します。  
抵抗値が判定値以上の場合、レ点に記載されます。  
抵抗値が判定値未満の場合、測定値が記載されます。

#### K. 容量判定方法

容量判定の方法を設定します。

「レ点」を選択すると、容量値が判定値以上の場合、レ点が記載されます。容量値が判定値未満の場合、空欄になります。

「測定値」を選択すると、測定した容量値が記載されます。

#### L. 絶縁抵抗判定値(空回線)

空回線(電話番号がない回線)の絶縁抵抗の良否を判定する値を入力します。

抵抗値が判定値以上の場合、レ点が記載されます。

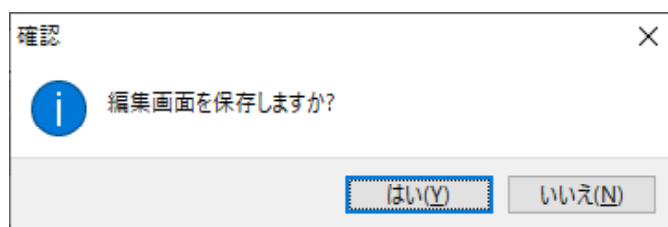
抵抗値が判定値未満の場合、測定値が記載されます。

### 6-5-2. 機能・動作

#### 1) 戻る

「戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図6-8)

「はい」もしくは「いいえ」をクリックすると「スポットデータ読み込み」に戻ります。



(図6-8)


「はい」をクリック : 入力・編集した成績表の設定項目が保存され、次に「スポットデータ試験成績表設定」に移動したときに、同じ編集内容が入力されている状態になります。  
この設定はソフトを終了しても保存されています。  
※測定日時、固配番号を除く

「いいえ」をクリック : 編集した成績表設定が消去されます。



## 2) 成績表作成

「成績表作成」をクリックすると、Excelで試験成績表を作成します。

 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・試験成績表を作成するためには、Excelがインストールされている必要があります。</li><li>・試験成績表を作成する際にExcelを自動的に起動しますので、あらかじめExcelを終了しておいてください。Excelが起動していると確認メッセージが表示されます。</li></ul>
---	--

### ○テンプレート（図6-9）

①工事前／後の線番データ（線番、種別、電話番号（局番を除く））、および測定データ（絶縁抵抗、容量、ループ抵抗、着信、線番確認、220Hz確認）が、試験成績表に記載されます。

電話番号が設定されている場合の絶縁抵抗は現用回線の欄に、電話番号が空欄の場合は空回線の欄に記載されます。

I回線においてL1→L2時の容量が「----」の場合、L2→L1の測定結果に置き換えて記載し、記事欄に「L2→L1」と記載します。

②試験に使用したALT-25の機器番号は、試験成績表の上段に記載されます。

③保存について

試験成績表を保存する場合は、Excelの保存方法に従い、Excel形式のファイルで保存されます。

④印刷について

試験成績表を印刷する場合は、Excelから印刷します。

試験成績表はA4縦×4枚（1枚につき25回線分）に印刷されます。

【試験成績表】テンプレート

市内ケーブル工事試験成績表

工事名	ビル名	ケーブル名 エント番号	測定年月日	測定器 心線対照器	固配番号	施工者名
[工事名1] [工事名2]	[ビル名]		2021/ /	ALT-25 21030005	000000	[施工者名]

局 線 番	線 番	電話番号		現用回線							空回線			線 番 確 認	L1 Hz 確 認	L2 Hz 確 認	記事
				絶縁抵抗 MΩ	容 量	ループ 抵抗 (Ω)	着 信	回線 極性 試験	共同 甲乙 識別	秘 話	絶縁抵抗 MΩ						
											L1 -E	L2 -E	L1 L2				
1	前後																
	前後																
	前後																
	前後																
	前後																
5	前後																
	前後																
	前後																
	前後																
	前後																

ALT-25の機器番号

↑

**【線番データ】**  
工事前・工事後の  
線番、回線種別、  
電話番号（下4桁）  
が入ります

↑

**【空き回線試験結果】**  
L1-L2, L1アース, L2アースの各  
絶縁抵抗が判定値(例: 0.65MΩ)  
以上の時「レ」が付き  
判定値未満の時、測定値が  
表示されます

↑

**【線番確認】**  
ジャンパ試験により、  
試験回線の電話番号との  
ジャンパの正常性を確認  
できた場合「レ」が付き  
ます

**【220Hz確認】**  
接続端子かん等において、  
心線対照器でL1・L2が  
正しく対照できたとき  
「レ」が付き  
ます

**【L1L2確認】**  
ALT-23の試験結果のため  
ALT-25では使用しません

**【現用回線試験結果】** アナログ(ADSL Type1)、I SDN

絶縁抵抗 : L1-L2間が判定値(例: 0.65MΩ) 以上の時「レ」が付き  
判定値未満の時、測定値が表示されます

容 量 : L1-L2間の容量測定値を表示します

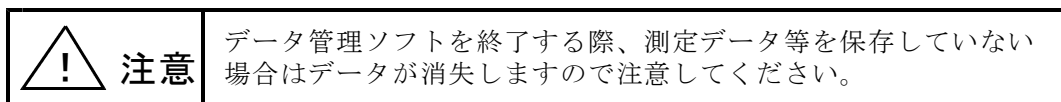
着 信 : 呼出し試験で、お客様が出られたとき「レ」が付き  
ループ抵抗 : 呼出し試験でのループ抵抗測定値を表示します

(図 6 - 9)

### 3) 終了

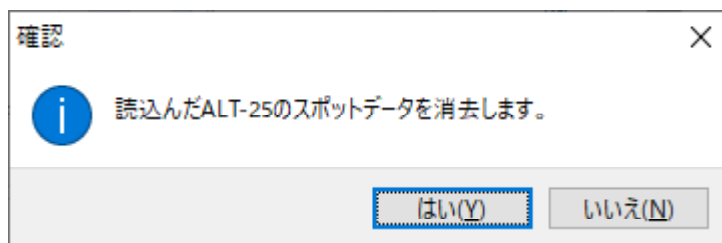
「終了」をクリックすると、確認画面が表示されます。

「はい」をクリックすると、データ管理ソフトを終了します。



### 6-6. メニューに戻る

「メニューに戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図6-10)



(図6-10)

「はい」をクリック : 読込んだスポットデータが消去され、メインメニューに戻ります。

「いいえ」をクリック : 読込んだスポットデータは消去されずに戻ります。

### 6-7. 全データ消去

「全データ消去」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図6-10)

「はい」をクリック : 読込んだスポット試験の測定データが消去され「スポットデータ読み」に戻ります。

「いいえ」をクリック : 読込んだスポット試験の測定データは消去されずに戻ります。

### 6-8. ファイルに保存

「ファイルに保存」をクリックすると、スポットデータをファイル保存できます。保存先フォルダを選択し、「OK」をクリックします。ファイル名は標準で、保存する時刻を元にして、

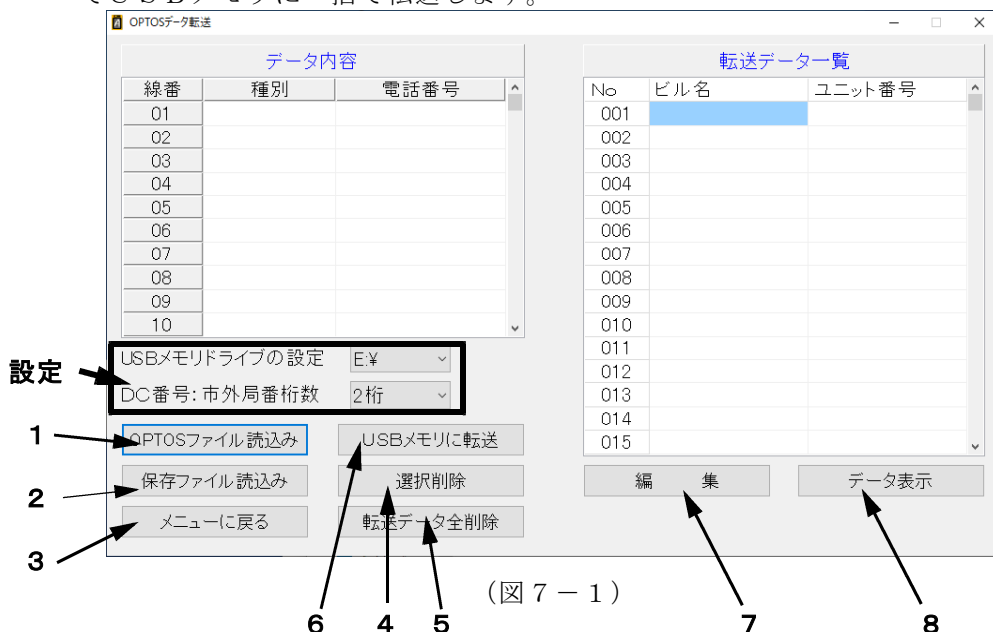
年2桁+月2桁+日2桁+時2桁+分2桁+「\_SPOT. csys」

と設定されます。

## 7. OPTOSデータ転送

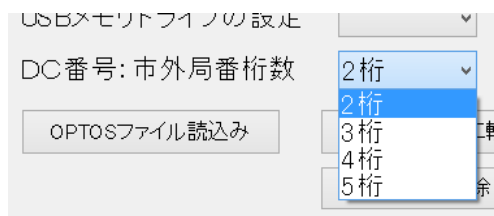
メインメニューの「OPTOSデータ転送」をクリックするとOPTOSデータ転送の画面（図7-1）が表示されます。ここでは、100回線ずつOPTOSデータファイルをパソコンから読み込み、「転送データ一覧」に割付けます。

これを必要回数繰り返します。「転送データ一覧」には、最大10,000回線分のOPTOSデータを割付けることができます。その後、「7-6. USBメモリに転送」でUSBメモリに一括で転送します。

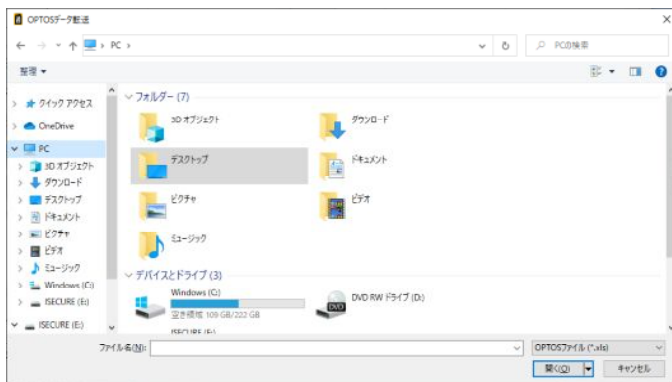


### 7-1. OPTOSファイル読み込み

- 1) 「DC番号：市外局番桁数」から市外局番の桁数を選択してください。



- 2) 「OPTOSファイル読み込み」をクリックすると、ファイル選択画面になります。  
 (図7-3)  
 ファイルの保存場所へ移動し、OPTOSデータファイルを選択してください。




(図7-3)

- 3) 読み込むファイルをクリックして選択した後、「開く」をクリックしてください。  
 読み込んだOPTOSデータが、右側の「転送データ一覧」に移動します。  
 左側の「データ内容」には、そのユニットの情報が表示されます。(図7-4)



(図7-4)

 <b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>OPTOSデータファイル以外のファイルを選択してしまった場合は、エラーメッセージが表示されます。正しいファイルを選択し直してください。</li> <li>OPTOSデータを読み込むには、Excelがインストールされている必要があります。</li> <li>OPTOSデータを読み込む際にExcelを自動的に起動しますので、あらかじめExcelを終了しておいてください。Excelが起動していると確認メッセージが表示されます。</li> </ul>
---	--

## 7-2. 保存ファイル読み込み

ALT-25データ管理ソフトで保存したデータを読み込むことができます。  
「保存ファイルを読み込み」をクリックすると、ファイル選択画面になりますので、保存したファイル (\*.csxs) を選択し「開く」をクリックしてください。  
読み込みが完了すると、OPTOS読み込みと同様に読込んだデータが「転送データ一覧」に表示されます。

## 7-3. メニューに戻る

「メニューに戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図7-5)



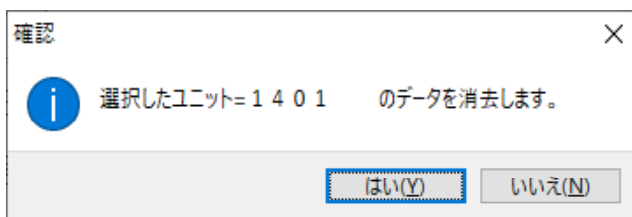
(図7-5)

「はい」をクリック : 読込んだOPTOSデータ、保存ファイルのデータが消去され、メインメニューに戻ります。

「いいえ」をクリック : データが消去されずに戻ります。

## 7-4. 選択削除

「転送データ一覧」のデータを削除します。削除する転送データをクリックし、「選択削除」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図7-6)



(図7-6)

「はい」をクリック : 選択しているデータが消去されます。

「いいえ」をクリック : データが消去されずに戻ります。

## 7-5. 転送データ全削除

「転送データ全削除」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図7-5)

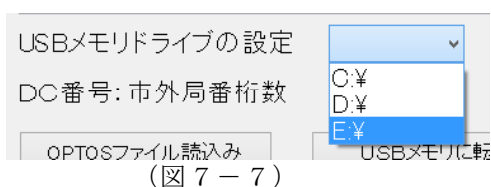
「はい」をクリック : 読込んだOPTOSデータ、保存ファイルのデータが消去されます。

「いいえ」をクリック : データが消去されずに戻ります。


## 7-6. USBメモリに転送

※USBメモリをパソコンに接続してから実施してください。

- 1) 「USBメモリドライブの設定」からUSBメモリの接続されているドライブを選択してください。(図7-7)



- 2) 上記の設定が完了しましたら、「USBメモリに転送」をクリックしてください。




**注意**

USBメモリ内にOPTOS転送データが残っている場合、USBメモリ内のデータと新たに転送したデータが、ALT-25に転送されます。

USBメモリ内のOPTOS転送データが不要な場合、メモリ内の「¥ALT-25¥Load¥」にあるファイルを削除してください。

○削除するファイル

\*\*\*.csx (\*\*\*(は000~099))



## 7-7. OPTOSデータ編集

「編集」をクリックすると「OPTOSデータ編集」に移動します。(図7-8)  
 ここでは、読込んだOPTOSデータを編集することができます。

枠の右端のスクロールバー等で変更したい番号までカーソルを移動し、変更する項目をクリックして、入力してください。



### 7-7-1. 項目の内容

- A. ユニット番号 (全角英数・カナ・かな6文字以内)  
OPTOSデータファイルから読込んだユニット番号を表示します。  
※工事前のユニット番号は編集できません。
- B. 線番 (2桁数字)  
OPTOSデータファイルから読込んだ線番を表示します。  
※工事前の線番は編集できません。
- C. 種別 (6文字以内)  
回線の種別を表示します。
- D. 電話番号 (5桁～10桁数字)  
OPTOSデータファイルから読込んだ電話番号が表示されます。
- E. DC番号 (5桁～10桁数字)  
OPTOSデータファイルから読込んだDC番号が表示されます。



F. 端子

端子の種類を設定します。スペースキーを押すと、「TS」と「R端子」が交互に切替ります。初期値は「TS」（試験弾器）です。

G. 収容位置（半角9桁数字）

H. リマーク（半角2数字）

収容位置とリマークの情報は、必要によりそれぞれ入力します。初期値は収容位置、リマークともにすべて「0」です。

I. 現地データ

試験回線の状態を示します。

現地データ欄をクリックすると、現地データ選択画面が表示されます。（図7-9）

現地データは、最大3つまで選択できます。

一覧に表示される場合は、2文字以下に省略されます。

- |               |              |               |
|---------------|--------------|---------------|
| 1) 上部落ち（上落）   | 2) 上部不良（上不）  | 3) 下部不良（下不）   |
| 4) 線番変更（線変）   | 5) 対照不可（対不）  | 6) 保留解除（保解）   |
| 7) JP線なし（J無）  | 8) マルチ切替（マ切） | 9) 事後連絡OK（事連） |
| 10) 打合せ回線（打合） | 11) その他（他）   | ※（）内は省略表示     |

現地データ選択

現地データ

1) 上部落ち       7) JP線なし

2) 上部不良       8) マルチ切替

3) 下部不良       9) 事後連絡OK

4) 線番変更       10) 打合せ回線

5) 対照不可       11) その他

6) 保留解除

決定

(図7-9)

## 7-7-2. 表示

### ①カーソル位置

編集している際のカーソル位置を表示します。

### ②ビル名（7文字以内）

OPTOSデータファイルから読込んだビル名が表示されます。

## 7-7-3. 機能・動作

### 1) 上の項目をコピー

カーソルの上にあるデータが、カーソル位置にコピーされます。  
※編集のできない工事前のユニット番号、線番はコピーされません。

### 2) 上の行をコピー

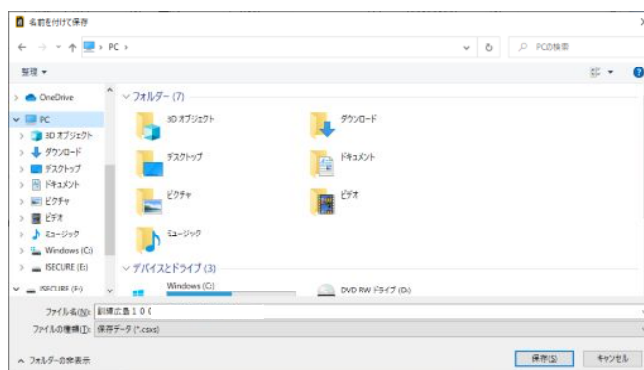
カーソルの上にある行のデータが、カーソル位置のある行にコピーされます。  
※編集のできない工事前のユニット番号、線番はコピーされません。

### 3) 選択行を消去

カーソルのある行のデータが全項目削除されます。  
削除後は初期値として、端子に「TS」、収容位置、リマークに「0」が内部で設定されます。  
※編集のできない工事前のユニット番号、線番は削除されません。

### 4) ファイルに保存

編集したデータを保存ファイルとして保存することができます。  
「ファイルに保存」をクリックすると、「名前を付けて保存」のウィンドウが表示されますので、ファイルを保存する場所、ファイル名を設定して保存します。



(図 7-10)

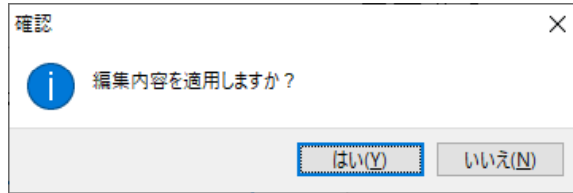
ファイル名は標準で、保存する時刻を元にして、

**ビル名+ユニット番号+年2桁+月2桁+日2桁+時2桁+分2桁「.csx」**

と設定されます。

5) 戻る

「戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図7-11)



(図7-11)

「はい」をクリック : 編集したOPTOSデータの変更内容を適用して、「OPTOSデータ転送」に戻ります。

「いいえ」をクリック : 編集したOPTOSデータの変更内容を破棄して、「OPTOSデータ転送」に戻ります。  
(データは編集前のものに戻ります)


## 7-8. データ表示

「データ表示」をクリックすると「読み込みデータ一覧」で選択しているユニットの測定データが表示されます。(図7-12)

No	前後	工外番号	線番	種別	電話番号 (ID)	LC番号	端子	取巻位置	リア	測定日	ユーザー名	シフト	トキ結果	通信
1	工事前	TEST	01	単	1-1234		TS	012345678	00	2013/09/11	D	○	○	
	工事後	TEST12	01	単	1234567890	0987654321	TS	098765432	00					
2	工事前	TEST	02	単	1-1234		TS	000000000	00	2013/09/11	D			
	工事後		02	単	1-1234		TS	000000000	00	2013/10/02	W		×	
3	工事前	TEST	03	単	11-2345		R端子	000000000	00	2013/09/11	D	○		
	工事後		03	単	11-2345		R端子	000000000	00	2013/09/11	D		×	
4	工事前	TEST	04	単	2-2221		TS	000000000	00					
	工事後		04				TS	000000000	00					
5	工事前	TEST	05	IN	65-5355		TS	000000000	00	2013/09/11	D	○		
	工事後		05	IN	65-5355		TS	000000000	00	2014/10/02	A	○		
6	工事前	TEST	06				TS	000000000	00	2013/10/07	W			
	工事後		06				TS	000000000	00					
7	工事前	TEST	07	単	1-1111		TS	000000000	00	2013/10/09	W		○	

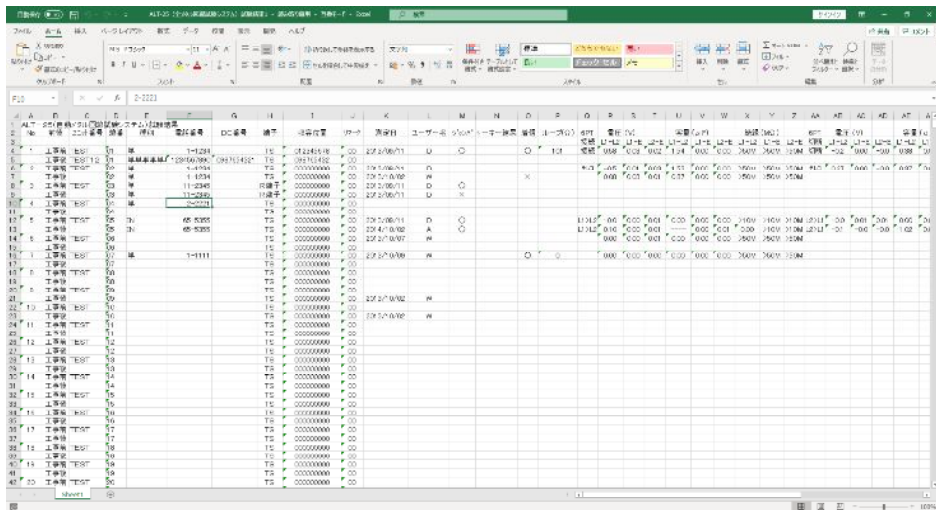
(図7-12)

- 「戻る」 : 前の画面に戻ります
- 「Excelに表示」 : Excelを起動して、画面に表示されたデータを自動的にExcelに表示します。(図7-13)



**注意**

- 測定データを表示するには、Excelがインストールされている必要があります。
- 測定データを表示する際にExcelを自動的に起動しますので、あらかじめExcelを終了しておいてください。Excelが起動していると確認メッセージが表示されます。



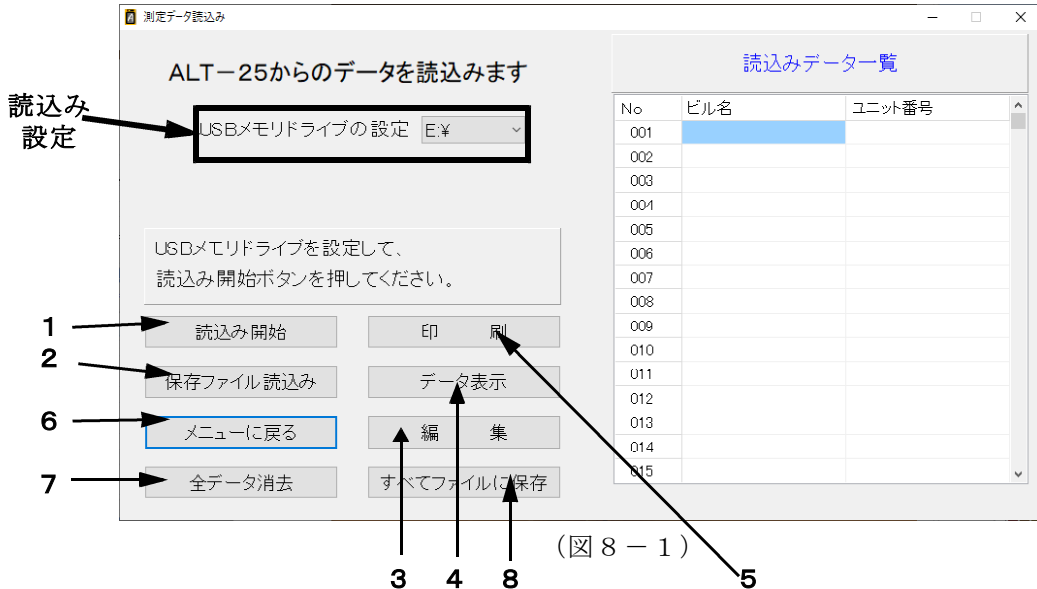
(図7-13)

## 8. OPTOSデータ読み込み

メインメニューの「OPTOSデータ読み込み」を選択するとOPTOSデータ読み込みの画面が表示されます。(図8-1)

ALT-25のOPTOS試験の測定データをUSBメモリに転送しておき、この画面でパソコンに読み込みます。

読み込んだデータはファイルに保存したり、試験成績表を作成してプリンタで印刷を行います。

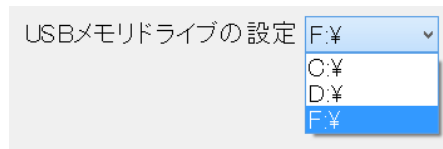


### 8-1. USBメモリから読み込み

※OPTOS試験の測定データを転送したUSBメモリをパソコンに接続してから実施してください。

#### 1) 読み込み設定

「USBメモリドライブの設定」で、USBメモリの接続されているドライブを選択してください。(図8-2)




(図8-2)

## 2) 読み込み

「読み込み開始」をクリックすると、USBメモリにあるOPTOS試験の測定データの読み込みを開始します。読み込んだデータは、読み込みデータ一覧に表示されます。



(図 8 - 3)

	<p><b>注意</b></p> <p>USBメモリ内にOPTOS試験の測定データが101ユニット以上保存されている場合でも、「読み込み」は100ユニットまでです。USBメモリの「¥ALT-25¥Save¥」フォルダにある不要な測定データを削除してください。</p> <p>ファイル名:***.csx ***.txt (***)は000~099) ※同じ番号のcsxとtxtはセットで消去してください</p>
---	--

### 8 - 2. 保存ファイル読み込み

ALT-25データ管理ソフトで保存したOPTOS試験データを読み込みます。「保存ファイルを読み込み」をクリックすると、ファイル選択画面になりますので、保存したファイル (\*.csxs) を選択し「開く」をクリックしてください。読み込みが完了するとOPTOS読み込みと同様に「読み込みデータ一覧」に表示されます。

### 8 - 3. 読み込みデータの編集

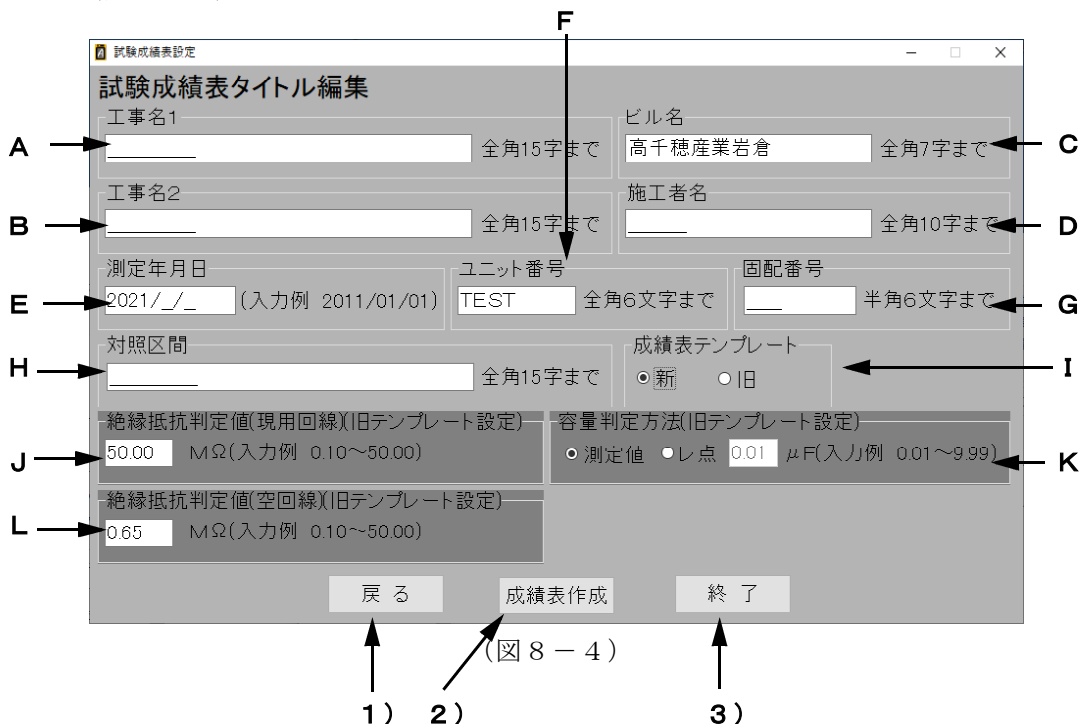
「編集」をクリックすると、「読み込みデータ編集」に移動します。ここでは、読み込んだ測定データのユニット番号、線番等を編集することができます。※「7-7. OPTOSデータ編集」と同じです。そちらを参照してください。  
**※測定結果は、編集することができません。**

### 8 - 4. データ表示

「データ表示」をクリックすると、「読み込みデータ一覧」で選択しているユニットの測定データが表示されます。※「7-8. データ表示」と同じです。そちらを参照してください。

## 8-5. 印刷

「印刷」をクリックすると、選択しているユニットの試験成績表を作成できます。  
(図8-4)



### 8-5-1. 設定の項目

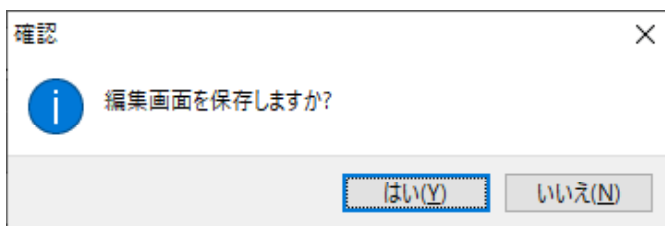
- A. 工事名 1  
工事名を入力します。試験成績表の工事名欄の上段に記載されます。  
全角 15 文字まで入力できます。
- B. 工事名 2  
工事名を入力します。試験成績表の工事名欄の下段に記載されます。  
全角 15 文字まで入力できます。
- C. ビル名  
ビル名を入力します。全角 7 文字まで入力できます。  
読込んだデータに入力されている場合は、自動で表示されます。
- D. 施工者名  
施工者名を入力します。全角 10 文字まで入力できます。
- E. 測定年月日  
測定年月日を入力します。半角の数字で年/月/日を入力します。
- F. ユニット番号  
ユニット番号を入力します。全角 6 文字まで入力できます。  
読込んだデータに入力されている場合は、自動で表示されます。

- G. 固配番号  
回線の固配番号を入力します。半角の数字で6桁まで入力できます。
- H. 対照区間  
対照区間を入力します。全角15文字まで入力できます。
- I. 成績表テンプレート  
成績表のテンプレートが「新」または「旧」を選択します。  
新テンプレート⇒(図8-6)、旧テンプレート⇒(図8-7) 参照  
※新テンプレートを選択しているとJ~Lの項目は編集できません
- J. 絶縁抵抗判定値(現用回線)(旧テンプレート用)  
現用回線の絶縁抵抗の良否を判定する値を入力します。  
抵抗値が判定値以上の場合、レ点が表示されます。  
※新テンプレートは測定した抵抗値が表示されます。
- K. 容量判定方法(旧テンプレート用)  
容量判定の方法を設定します。  
「レ点」を選択すると、容量値が判定値以上の場合、レ点が表示されます。  
「測定値」を選択すると、測定した容量値が表示されます。  
※新テンプレートは測定した容量値が表示されます。
- L. 絶縁抵抗判定値(空き回線)(旧テンプレート設定)  
空き回線の絶縁抵抗の良否を判定する値を入力します。  
抵抗値が判定値以上の場合、レ点が表示されます。  
※新テンプレートは測定した抵抗値が表示されます。

## 8-5-2. 機能・動作

### 1) 戻る

「戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図8-5)



(図8-5)


「はい」をクリック : 入力・編集した成績表の設定項目が保存され、次に「スポットデータ試験成績表設定」に移動したときに、同じ編集内容が入力されている状態になります。  
この設定はソフトを終了しても保存されています。  
※測定日時、固配番号を除く

「いいえ」をクリック : 編集した成績表設定が消去されます。



## 2) 成績表作成

「成績表作成」をクリックすると、Excelで試験成績表を作成します。

	<b>注意</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・試験成績表を作成するためには、Excelがインストールされている必要があります。</li><li>・試験成績表を作成する際にExcelを自動的に起動しますので、あらかじめExcelを終了しておいてください。Excelが起動していると確認メッセージが表示されます。</li></ul>
---	--

### ○テンプレート (図 8-6, 8-7)

①工事前／後の線番データ (線番、種別、電話番号 (局番を除く))、および測定データ (絶縁抵抗、電圧、容量、220Hz(ALT)、ジャンパ試験(ALT)) が、試験成績表に記載されます。

I 回線においてL1→L2時の容量が「----」の場合、L2→L1の測定結果に置き換えて記載し、記事欄に「L2→L1」と記載します。  
現地データは、記事欄に表示されます。

②試験に使用したALT-25の機器番号は、試験成績表の上段に記載されます。

③保存について

試験成績表を保存する場合は、Excelの保存方法に従い、Excel形式のファイルで保存されます。

④印刷について


試験成績表を印刷する場合は、Excelから印刷します。

試験成績表はA4縦×4枚 (1枚につき25回線分) に印刷されます。

## 3) 終了

「終了」をクリックすると、確認画面が表示されます。

「はい」をクリックすると、データ管理ソフトを終了します。

	<b>注意</b> <p>データ管理ソフトを終了する際、測定データ等を保存していない場合はデータが消失しますので注意してください。</p>
---	---

【試験成績表】新テンプレート

市内ケーブル工事試験成績表																		
工事名		ビル名		ケーブル名 ユニット番号		測定年月日		測定器 機器番号		回配番号	施工者名							
[工事名1] [工事名2]		[ビル名]		1403		2021/ /		ALT-25 Z1030005		000000	[施工者名]							
局線	線 番	工事 前後	電話番号		絶縁抵抗 MΩ			電圧 V			容量 μF			心線対照 (220Hz)		試験 結果	記事	
			種別	電番	L1 L2	L1 -E	L2 -E	L1 L2	L1 -E	L2 -E	L1 L2	L1 -E	L2 -E	心線対照 (220Hz)	心線対照 (220Hz)			
1~5	01	前	単1N	1201														
	01	後	単1N	1201														
	02	前	単1N	1202														
	02	後	単1N	1202														
	03	前	単	1203														
	03	後	単	1203														
	04	前	単	1204														
	04	後	単	1204														
	05	前	単1N	1205														
	05	後	単1N	1205														
06	前	端単	1206															

ALT-25の機器番号

↑

**【線番データ】**  
 工事前・工事後の  
 線番、回線種別、  
 電話番号（下4桁）  
 が入ります

↑

**【ジャンパ試験】**  
 試験回線の電話番号とのジャンパ正常性を確認  
 できたかどうかで○×が付きます  
**【220Hz確認】**  
 接続端子かん等において、心線対照器でL1L2が  
 正しく対照できたかどうかで○×が付きます

**【回線試験結果】** アナログ(ADSL Type1)、ISDN、空き

絶縁抵抗：L1-L2、L1-E、L2-E間の絶縁抵抗測定値を表示します  
 電圧：L1-L2、L1-E、L2-E間の電圧測定値を表示します  
 容量：L1-L2、L1-E、L2-E間の容量測定値を表示します

(図8-6)

【試験成績表】旧テンプレート

市内ケーブル工事試験成績表

工事名	ビル名	ケーブル名 エント番号	測定年月日	測定器 心線対照器	固配番号	施工者名
[工事名1] [工事名2]	[ビル名]	1403	2021/ /	ALT-25 21030005	000000	[施工者名]

局 線	線 番	電話番号		現用回線							空回線			線 番 確 認	L1 L2 Hz 確 認	ALT-25の機器番号 [対照区間] 記 事
				絶縁抵抗 MΩ	容 量	ル ー プ 抵 抗 (Ω)	着 信	回 線 極 性 試 験	共 同 甲 乙 識 別	秘 話	絶縁抵抗 MΩ					
											L1 -E	L2 -E	L1 L2			
1   5	01	前	単 I N	1201												
	01	後	単 I N	1201												
	02	前	単 I N	1202												
	02	後	単 I N	1202												
	03	前	単	1203												
	03	後	単	1203												
	04	前	単	1204												
	04	後	単	1204												
	05	前	単 I N	1205												
	05	後	単 I N	1205												
06	前	臨単	1206													

↑

**【線番データ】**  
工事前・工事後の  
線番、回線種別、  
電話番号（下4桁）  
が入ります



↑

**【空き回線試験結果】**  
L1-L2, L1アース, L2アースの各  
絶縁抵抗が判定値(例: 0.65MΩ)  
以上の時「レ」が付き  
判定値未満の時、測定値が  
表示されます



**【線番確認】**  
ジャンパ試験により、  
試験回線の電話番号との  
ジャンパの正常性を確認  
できた場合「レ」が付き  
ます

**【220Hz確認】**  
接続端子カム等において、  
心線対照器でL1・L2が  
正しく対照できたとき  
「レ」が付きます

**【L1L2確認】**  
ALT-23の試験結果のため  
ALT-25では使用しません

**【現用回線試験結果】** アナログ(ADSL Type1)、I SDN

絶縁抵抗 : L1-L2間が判定値(例: 0.65MΩ)以上の時「レ」が付き  
判定値未満の時、測定値が表示されます

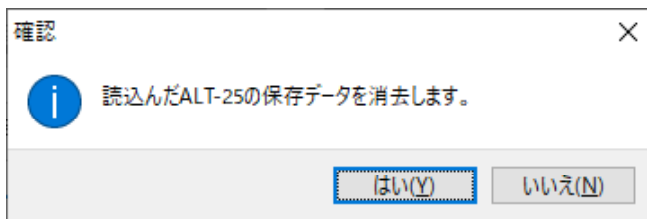
容 量 : L1-L2間の容量測定値を表示します

着 信 : 呼出し試験で、お客様が出られたとき「レ」が付き  
ループ抵抗 : 呼出し試験でのループ抵抗測定値を表示します

(図 8 - 7)

## 8-6. メニューに戻る

「メニューに戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図8-8)



(図8-8)

「はい」をクリック : 読込んだ測定データが消去され、メインメニューに戻ります。

「いいえ」をクリック : 読込んだ測定データは消去されずに戻ります。

## 8-7. 全データ消去

「全データ消去」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図8-8)

「はい」をクリック : 読込んだ測定データが消去され、「測定データ読込み」に戻ります。

「いいえ」をクリック : 読込んだ測定データは消去されずに戻ります。

## 8-8. すべてファイルに保存

「すべてファイルに保存」をクリックすると、「読込みデータ一覧」にある測定データを一括で保存できます。

保存先フォルダを選択し、「OK」をクリックします。

ファイル名は標準で、保存する時刻を元にして、

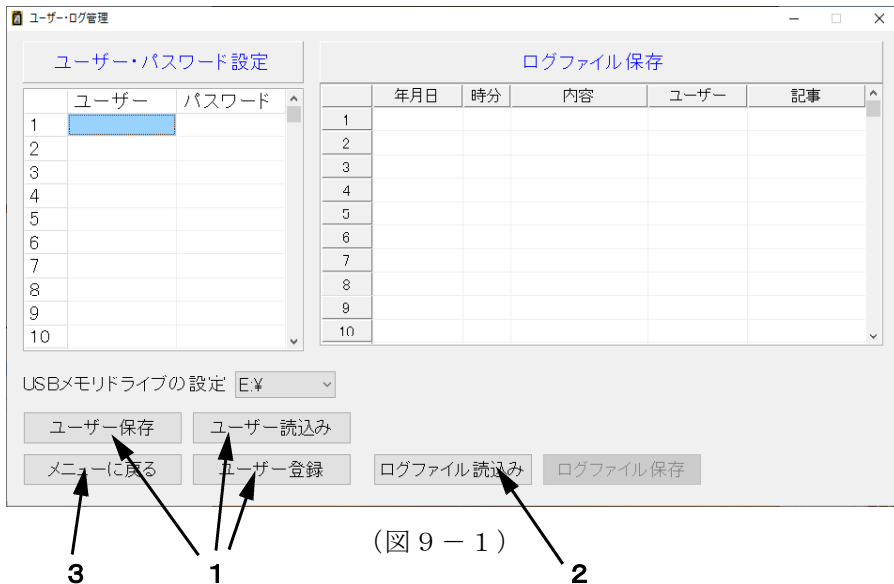
**ビル名+ユニット番号+[枝番号]+年2桁+月2桁+日2桁+時2桁+分2桁」.csxs**

と設定されます。

※枝番号は同名のユニット番号がある場合「-1」～「-9」が付与されます。

## 9. ユーザー・ログ管理

ここでは、ALT-25のログイン時のユーザー・パスワードの設定とログデータの読み込み・保存が行えます。



### 9-1. ユーザー・パスワードの設定

#### 1) ユーザー・パスワード入力

「ユーザー・パスワード設定」の選択した箇所に入力します。

ユーザー	: 半角英数字 1文字以上、最大8文字
パスワード	: 半角英数字 1文字以上、最大8文字
登録件数	: 最大100件

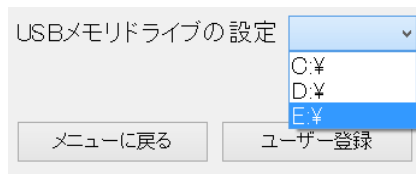
	ユーザー	パスワード
1	A	A
2	B	B
3	C	C
4	D	D
5	E	E
6	F	F
7	G	G
8	H	H
9	I	I
10	J	J

(図 9 - 2)

※ユーザーのみ、パスワードのみの登録はできません。

#### 2) USBメモリへの転送

「USBメモリドライブの設定」からUSBメモリの接続されているドライブを選択し、「ユーザー登録」をクリックしてください。(図 9 - 3)

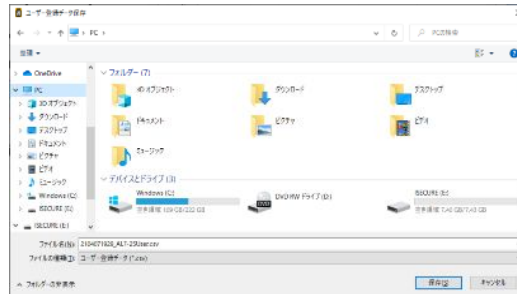


(図 9 - 3)

### 3) ユーザー保存

「ユーザー保存」をクリックするとファイル保存画面になりますので、ファイル名を入力して保存をクリックしてください。(図9-4)

「ユーザー・パスワード設定」に記載したユーザー・パスワードをCSV形式のファイルに保存することができます。

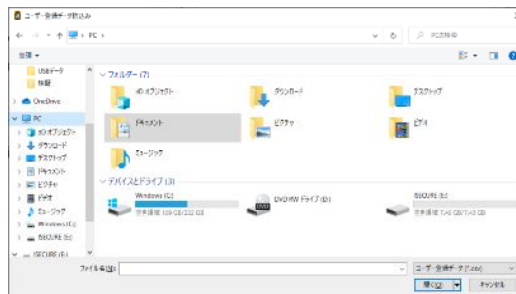


(図9-4)

### 4) ユーザー読み込み

「ユーザー読み込み」をクリックするとファイル選択画面になりますので、「ユーザー保存」で保存したファイルを選択してください。(図9-5)

保存したユーザー・パスワードを読み込むことができます。



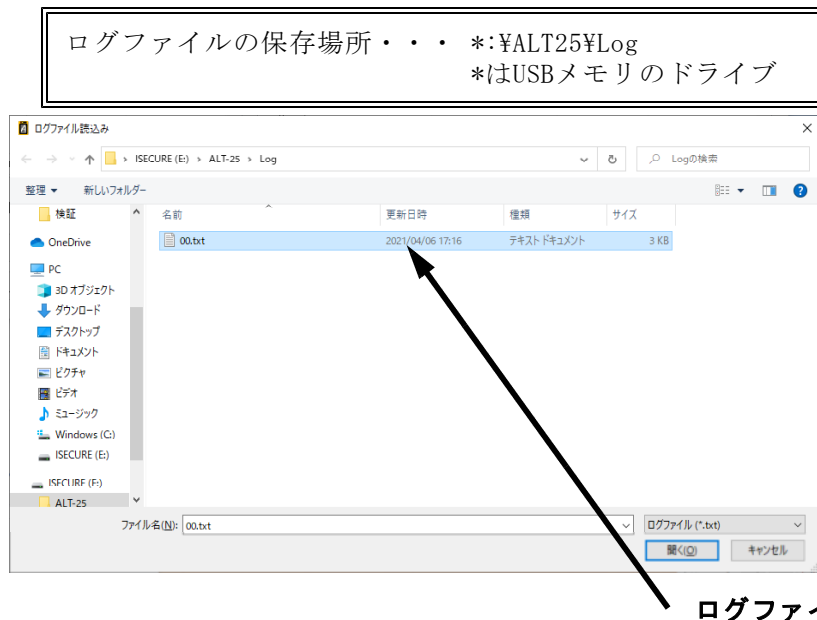
(図9-5)

## 9-2. ログファイルの読み込み・保存

※ALT-25のログファイルを転送したUSBメモリをパソコンに接続してから実施してください。

### 1) ログファイルの読み込み

「ログファイル読み込み」をクリックすると、ファイル選択画面になりますので、USBメモリ内のLOGフォルダからLOG00.txtのファイルを選択し、「開く」をクリックしてください。(図9-6)



(図9-6)

ログファイルの読み込みが完了しますと、「ログファイル保存」にログデータが表示されます。(図9-7)



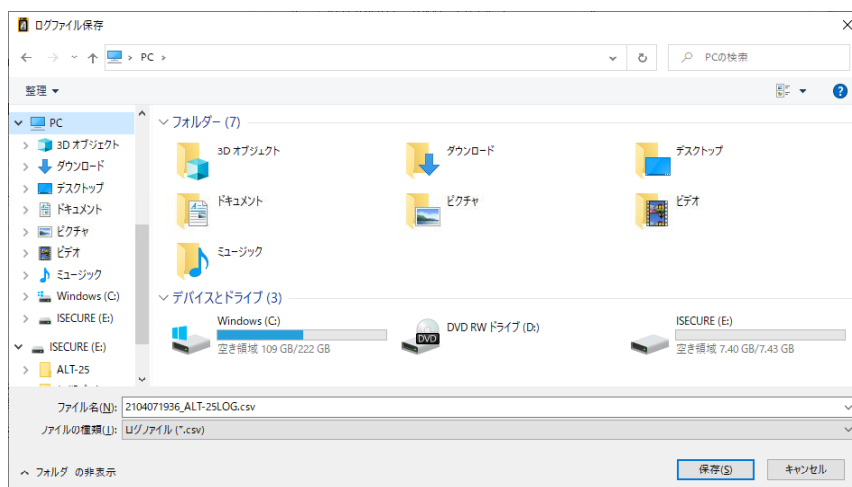
(図9-7)

- ログデータの内容について  
ログの記録された年月日・時分、「ログイン」または「I 回線試験設定」、  
使用者（ユーザー名）が表示されます。

## 2) ログファイルの保存

ログファイルの読み込み後、「ログファイル保存」をクリックすると、「名前を付けて保存」のダイアログが出ますので、保存場所とファイル名を設定し、保存してください。（図 9-8）

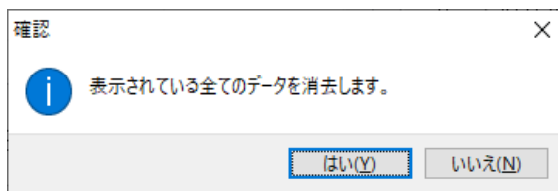
ログファイルは.csv形式で保存されます。



(図 9-8)

## 9-3. メニューに戻る

「メニューに戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。（図 9-9）



(図 9-9)

「はい」をクリック : 入力したユーザー・パスワードおよび読込んだログデータが消去され、メインメニューに戻ります。

「いいえ」をクリック : 入力したユーザー・パスワードおよび読込んだログデータは消去されずに戻ります。

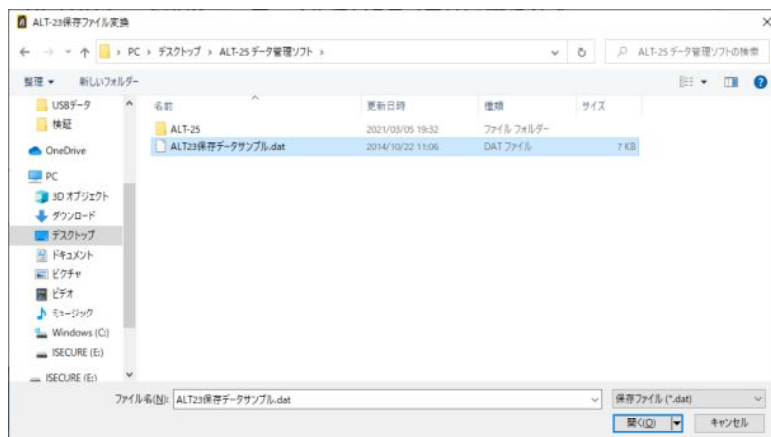


## 10. 保存データ変換

ここでは、ALT-23データ管理ソフトで保存したデータをALT-25用のデータに変換し、ALT-25に転送することができます。

メインメニューの「保存データ変換」をクリックすると、ALT-23保存ファイルを選択する画面が表示されます。(図10-1)

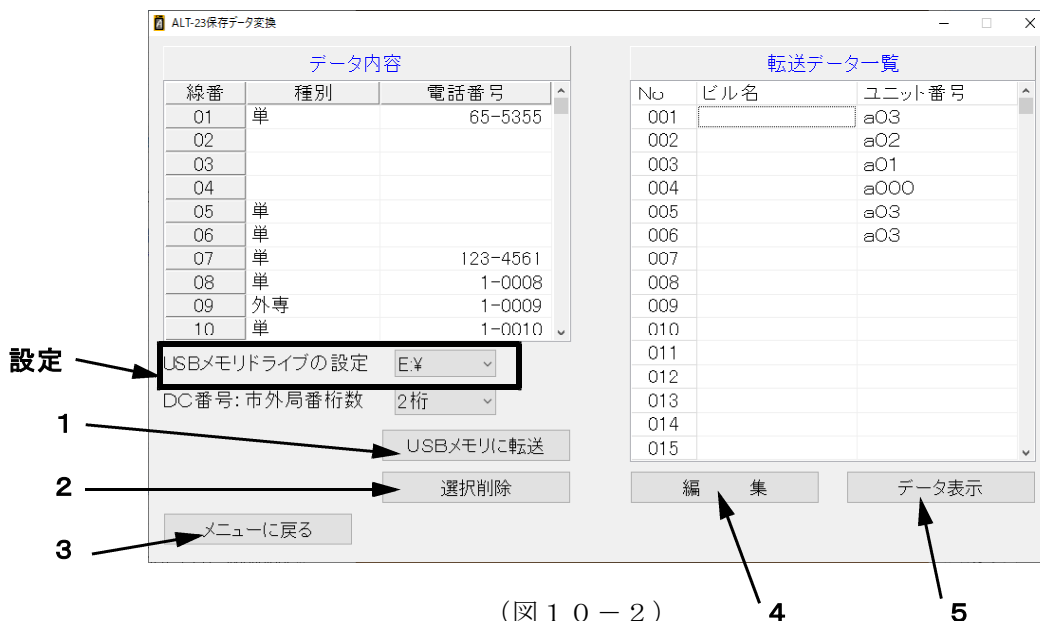
ファイル(.dat)を選択して開くをクリックしてください



(図10-1)

ファイルを読み込むと「ALT-23保存データ変換」の画面が表示されます。

(図10-2)



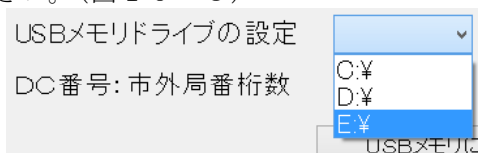
(図10-2)

複数のユニット番号が保存されている場合、ユニット番号ごとに分けられ「転送データ一覧」に表示されます。ユニット番号のない線番はスキップし、読み込みを行いません。

## 10-1. USBメモリに転送


※USBメモリをパソコンに接続してから実施してください。

- 1) 「USBメモリドライブの設定」からUSBメモリの接続されているドライブを選択してください。(図10-3)



(図10-3)

- 2) 上記の設定が完了しましたら、「USBメモリに転送」をクリックしてください。




**注意**

USBメモリ内にOPTOS転送データが残っている場合、USBメモリ内のデータと新たに転送したデータが、ALT-25に転送されます。

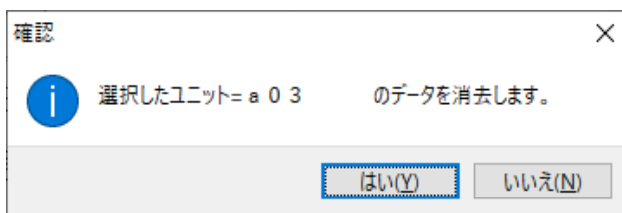
USBメモリ内のOPTOS転送データが不要な場合、メモリ内の「¥ALT-25¥Load¥」にあるファイルを削除してください。

○削除するファイル  
\*\*\*.csx (\*\*\*)は000~099)



## 10-2. 選択削除

「選択削除」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図10-4)



(図10-4)

「はい」をクリック : 選択しているデータが消去されます。

「いいえ」をクリック : データが消去されずに戻ります。

### 10-3. メニューに戻る

「メニューに戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図10-5)



(図10-5)

「はい」をクリック : データが消去され、メインメニューに戻ります。

「いいえ」をクリック : データが消去されずに戻ります。

### 10-4. データの編集

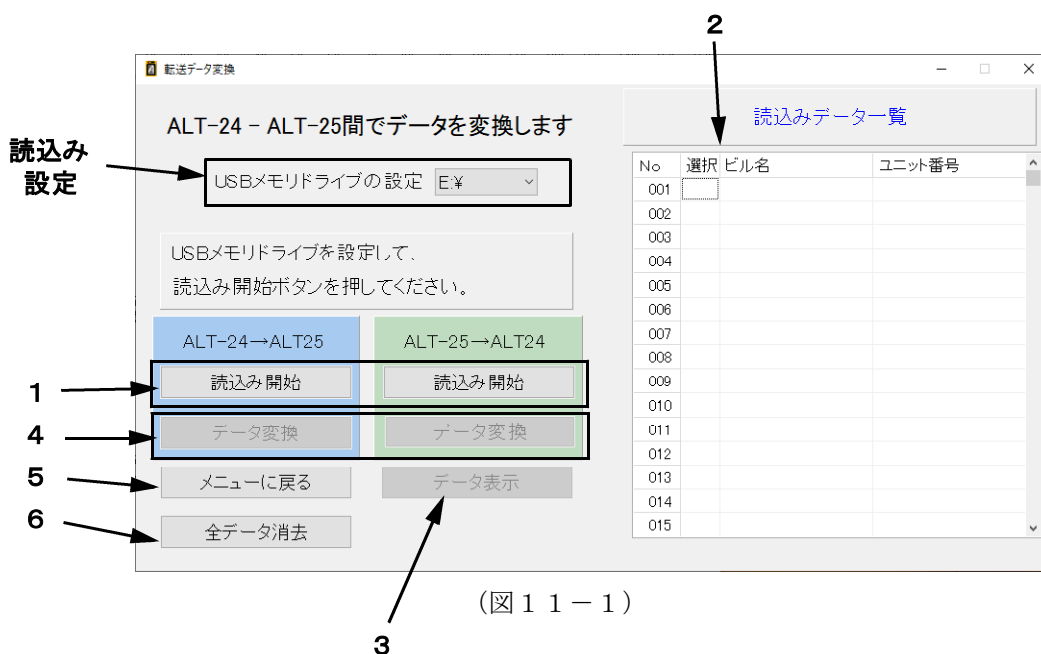
「編集」をクリックすると、「ALT-23保存データ編集」に移動します。  
ここでは、読込んだデータのユニット番号、線番等を編集することができます。  
※「7-7. OPTOSデータ編集」と同じです。そちらを参照してください。  
**※測定結果は、編集することができません。**

### 10-5. データ表示

「データ表示」をクリックすると、「転送データ一覧」で選択しているユニットの測定データが表示されます。  
※「7-8. データ表示」と同じです。そちらを参照してください。

## 1 1. 転送データ変換

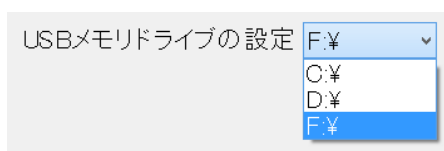
ここではALT-24 - ALT-25間でデータ転送できるようALTでUSBメモリ内に保存したデータを変換します。



### 1 1 - 1. USBメモリから読み込み

#### 1) 読み込み設定

「USBメモリドライブの設定」で、USBメモリの接続されているドライブを選択してください。(図 1 1 - 2)



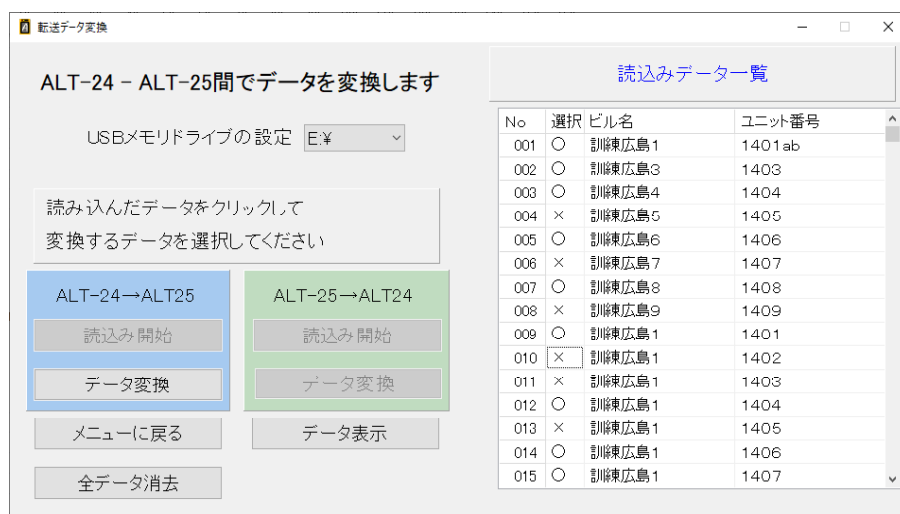
#### 2) 読み込み

「読み込み開始」をクリックすると、ALTからUSBメモリに保存された測定データの読み込みを開始します。データを変換したいほうのボタンを押してください。読み込んだデータは、読み込みデータ一覧に表示されます。

## 1 1 - 2. データ選択

読み込みデータ一覧の選択で○の付いたユニットのデータをUSBメモリに転送することが出来ます。読み込んだデータの選択の枠をををクリックすると○×が切替わり、データを転送するユニットを選ぶことができます。(図 1 1 - 3)

また、一番上の選択の文字の部分をクリックすると読み込んだデータを一括で○または×に出来ます。



(図 1 1 - 3)

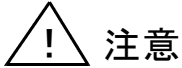
## 1 1 - 3. データ表示

「データ表示」をクリックすると、「読み込みデータ一覧」で選択しているユニットの測定データが表示されます。

※「7 - 8. データ表示」と同じです。そちらを参照してください。

## 1 1 - 4. データ変換

「データ変換」をクリックすると、○の付いたデータをUSBメモリに転送します。



注意

USBメモリ内にOPTOS転送データが残っている場合、USBメモリ内のデータと新たに転送したデータが、ALTに転送されます。

USBメモリ内のOPTOS転送データが不要な場合、下記のファイルとフォルダ（中のファイルを含む）を削除して下さい。

○削除するファイル(ALT-25の場合)

「¥ALT-25¥Load¥」内

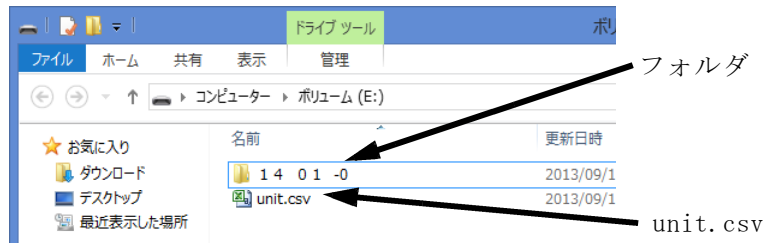
\*\*\*.csx (\*\*\*は000~099)



○削除するファイル(ALT-24の場合)

ルートディレクトリ内

- ユニット名 - \* (フォルダ) \*は0~9の数字
- unit.csv



## 1 1 - 5 . メニューに戻る

「メニューに戻る」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図 1 1 - 4)



(図 1 1 - 4)

「はい」をクリック : 読込んだ測定データが消去され、メインメニューに戻ります。

「いいえ」をクリック : 読込んだ測定データは消去されずに戻ります。

## 1 1 - 6. 全データ消去


「全データ消去」をクリックすると、確認画面が表示されます。(図 1 1 - 4)

「はい」をクリック : 読込んだ測定データが消去され、「測定データ読込み」に戻ります。

「いいえ」をクリック : 読込んだ測定データは消去されずに戻ります。

## 1 2. 終了

メインメニューで「終了」を選択すると、データ管理ソフトを終了します。  
また、その他の画面で右上の「×」をクリックすると、確認画面が表示され、「はい」をクリックすると、途中からでも終了できます。

	<b>注意</b>	データ管理ソフトを終了する際、測定データ等を保存していない場合はデータが消失しますので注意してください。
---	-----------	--